

社長メッセージ

ステークホルダーのみなさまへ



アンテナを高く、未来志向、
強い当事者意識で、研究開発とモノづくりに
取り組んでまいります。

取締役社長

有馬 浩二

Q1 2015年6月に社長に就任されてから1年が経ちました。 特に注力したこと、またその成果等、就任1年目の総括をお願いします。

社長に就任してからのこの1年、「環境」と「安心・安全」に寄与する製品を通じて広く社会に貢献するという使命を果たすため、グローバルな視点でスピード感を持って、意思決定にあたってまいりました。

当社は2015年に、2020年のありたい姿を視野に入れ、2018年を達成年度とする中期方針を策定し、「環境、安心・安全」、「市販・新事業」、「海外市場」の3つを注力分野と定め、新たな挑戦をスタートしています。活動の初年度にあたる2015年度は、省燃費に貢献する環境製品や、交通事故を未然に防止する安心・安全製品の開発を一層加速させ、更にクルマで培った技術を活かした農業支援分野での製品の販売を開始しました。また、国内外のグループ会社へ、ダントツ工場づくりの活動を拡大するとともに、DP-Factory IoT革新室を設置する等、モノづくりの更なる技術革新と、質の飛躍的向上を目指して、取り組みをスタートさせました。

このめまぐるしく変化している環境下において何とかやってこられたのも、15万人の社員一人ひとりの頑張り、ひいては、ステークホルダーのみなさまからのご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

私たちは、2018年までに、研究開発とモノづくりの力を更に高め、世界初・地域発の先端技術の開発を加速し、グローバルに社会に貢献できる企業になりたいと考えています。私たちを取り巻く事業環境の変化は、益々速く、大きくなっており、いわゆるパラダイム変化が起こっています。この激しい変化の中で、中期計画を実現していくためには、アンテナを高く、未来志向を持ち、どんな課題があろうとも健全な危機意識をしっかりと持ち、とにかくやりきるんだ、という強い当事者意識とオーナーシップが必要です。そして、これまでにないスピード感を持った取り組みが必要不可欠であると考えています。2016年度は、中期計画の2年目ではありますが、将来の成長に向けて極めて重要な年であるとの認識から、「変革元年」と位置づけています。私自身も、ぶれることなく、意識改革と行動改革を推進してまいります。

Q2 これまでの取り組みの事例をいくつか教えてください。

社会ニーズを踏まえ、現在重要課題として取り組んでいるADAS* (高度運転支援システム)、IoTを例にご紹介させていただきます。

*Advanced Driver Assistance System

ADASへの取り組み

世界的な人口の急増に伴う交通事故死者数の大幅な増加が危惧される中で、その社会課題を解決するため、自動運転につながる高度運転支援技術へのニーズがより一層高まっています。カーメカ各社では、2020年の自動運転本格実用化に向けた開発競争が加速しており、当社においても、競争すべき領域と協調すべき領域を見極め、アライアンスによる戦略的な仕掛けを積極的に行っています。

また、自動運転に関する技術開発を加速するため、2016年1月よりこれまで別々の組織であった関連部署を集約し、「ADAS推進部」を立ち上げました。従来は各々の機能部や事業部で個別

に行ってきた研究・技術開発を集約し、スピードを加速させることで、事業化を更に強力に推進してまいります。

IoTへの取り組み

一方、Industry 4.0に代表されるように、世界中でIoTに対する注目が高まっています。

当社も、今後の更なる競争力の向上を実現すべく、IoTを用いたグローバルでのモノづくりを進化させていく方針です。まずは、2020年までに生産性を30%向上させることを目指し、「DP-Factory IoT革新室」を立ち上げ、活動を開始しました。私は、人の力がベースになっているモノづくりの現場を大切にしたいと考えています。IoTを工場や設備のマネジメントに活用することで、今まで見えていなかった情報を可視化し、問題が起こる前に対策を取れるようにし、事業グループや国を超えて改善事例が行き交うようにして、無限である人間の知恵を前向きな改善に活かすことで、創造性豊かな、さらに生き活きとした現場を実現し、グローバルでモノづくりの実力をより一層向上させていきたいと考えています。

Q3 デンソーが事業活動を推進するにあたり、大切にしていることは何でしょうか？

当社が最も大切にしていることは、研究開発・モノづくり・ヒトづくりの総智・総力であり、これがデンソーの成長の原動力となっていると考えています。

当社は、世界初にこだわり、グローバルな視点で、10年20年先を見据えた研究開発に、カーメーカとともに取り組んできました。またモノづくりにおいては、創業以来、一貫して内製技術にこだわり、設備、生産ライン、素材、加工方法まで自社で製造設計しています。そして、当社の最大の特徴は、それら研究開発とモノづくりの緊密な連携による製品開発の高度化、スピード化にあると考えています。

そのような強みを大切にしながらも、これからは「変えるべきこと、変えてはいけないこと」をしっかりと考えていきたいと思っています。

めまぐるしく変化する事業環境の中では、スピードがより一層重要になって



きます。全てを手の内化する自前主義だけでは、競合との開発競争にスピード感をもって対応できないことも考えられます。これまで以上に俊敏性を高めるためにも、他社・研究機関等との協業を行うことで、変化することを恐れず、様々な知見を取り入れ、技術を磨き続けていきたいと考えています。

一方で、創業以来培ってきた社員共通の価値観である、「デンソースピリット」は、当社が大切にしてきた変わることのない財産です。当社では「ヒトづくり」を経営の根幹と考え、このデンソースピリットに基づいた、積極的な人材育成に力を入れてきました。

常に変化を先取りする姿勢で挑戦し続け、創意と工夫により当社ならではの新しい価値の創造に努め続ける「先進」、品質への徹底したこだわりや、現地現物を基本とした日々の弛まぬ改善を通じて、お客様や社会の期待を超える価値観を提供する「信頼」、そして社員全員で目標を共有し、知恵と力を結集し、全社一丸となって高い目標に挑戦し続ける「総智・総力」。この「デンソースピリット」を、今後も当社の未来を切り拓くための原動力として、世界中の仲間と共有し続けていきたいと思っています。



Q4 デンソーグループの更なる成長に向けて、有馬社長の想い・抱負をお聞かせください。

今後も、よりよい社会づくりに貢献することで、人々から求められ、必要とされる企業となることを目指し、事業活動を行ってまいります。

デンソーは、自動車の電装品メーカーとして1949年に設立され、現在まで事業領域をグローバルに拡大させてまいりました。これは、常に時代やお客様のニーズに対し積み重ねてきた「研究開発力」や「モノづくり力」、「ヒトづくり力」を結集させ、世界初の製品や技術の提供を通じて、よりよい社会づくりに取り組んだ結果であり、このサイクルを継続していくことが大切だと考えています。そのため、全てのステークホルダーとの関係の中で、そのサイクルを回し、ともに成長・発展していける企業グループになるべく舵を取ることが私の責務であると認識しています。

また、事業を通じて社会の課題を解決し、社会に価値を提供し続けることで、収益の向上や財務基盤を強化し、デンソーの企業価値の向上を実現していきたいと考えています。更に、その結果を株主のみなさまへの還元につなげていくという考え方の下、長期安定的に配当水準を向上させることも、デンソーグループの重要な使命であると認識しています。

「会社の価値」については、ともすると事業活動の結果である売上や利益等の数値で表されるものだけと誤解されがちですが、ガバナンス・環境・社会のような、目に見えない、数値化できない活動も、企業の価値を支え、その価値を向上させるためには必要不可欠であると考えています。継続的によりよい社会へ貢献していく基盤をつくるため、このような活動もより一層強化してまいります。

これからも、よりよい社会づくりに貢献できるよう、社員一人ひとりが、もっと先へ、もっと上へ、勇気を持って一步を踏み出せる、情熱と笑顔の満ち溢れる企業であり続けたいと考えています。

引き続きみなさまの変わらぬご支援の程、よろしく願い申し上げます。